

久保田 信¹・檜山 嘉郎²・中西 弘樹³：

和歌山県白浜町番所崎およびその近隣海岸へ夏季の短期間に集中漂着した熱帯起源の植物散布体

Shin KUBOTA¹, Yoshiro KASHIYAMA² and Hiroki NAKANISHI³: Disseminules of plants originated from tropical areas washed ashore massively at coasts of Bansho-zaki and its adjacent places, Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan in a short period in summer

これまで和歌山県白浜町、特に白浜半島の先端に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所周辺の番所崎や“北浜・南浜”の礫浜海岸(図1:B, K)にはアダン *Pandanus formosana* Hemsl., イルカンダ *Macuna macrocarpa* Wall., ココヤシ *Cocos nucifera* L., ゴバンノアシ *Barringtonia asiatica* (L.) Kurz, ニリスハウガンヒルギ *Xylocarpus mokuccensis* (Lam.) Roem., ホウガンヒルギ *Xylocarpus granatum* Koenig, モダマ *Entada phaseoloides* (L.) Merr., モモタマナ *Terminalia catappa* L. などのさまざまな熱帯系植物の散布体が漂着している(檜山ほか 2003, 2006; 久保田 2003, 2006a, b; 久保田ほか 1999, 2004a, b). 今回, 2008年の8月30日から9月16日にかけてのわずか半月の間に, 上述の場所およびそこから数百m東側の田尻(田辺湾内)の海岸(図1:T)に, 南方系植物6種の散布体が集中して漂着した. そのうち3種は当地区での初記録となったのでそれらを含めて報告する.

・オオバヒルギ *Rhizophora mucronata* Lam. (ヒルギ科)

8月30日に北浜(図1:K)に本種の胚軸1個が漂着した. 胚軸の長さは約58cm, 直径は中央部分で11mm, 下部の最も太い部分は18mmで, 重さは約100g, 濃緑色で光沢があり, 所々黒褐色をしている(図2). 水に入れたところ, 垂直になって浮いた. 本種は琉球列島以南に分布し, 分布域では胚軸の漂着はふつうに見られるが, 日本本土への漂着はまれで, Nakanishi (1987) によって山口県で初めて記録されており, 福岡県からヒルギの胚軸として記録(石井 1977)されたものもオオバヒルギと考えられる(中西 1999). 日本産オオバヒルギの胚軸の長さは20~40cmとなっており(初島 1989), これまで漂着したものもこの範囲にはいる(中西 1999). これに対して台湾や東南アジア産のオオバヒルギの胚軸の長さは60cmに達する(何 1982; Corner・渡辺 1969)ので, 北浜に漂着したものは, 台湾あるいはフィリピンなどから流れてきたものと推定され, 海外からわが国へ漂着したオオバヒルギの確かな記録となる.

・ホウガンヒルギ *Xylocarpus granatum* Koenig (センダン科)

本地区での漂着はすでに記録されているが(久保田 2003), 8月30日に北浜(図1:K)にオオバヒルギと共に1個が漂着していた. 長さは最も長い部分が約6cmで, はば円錐形である.

・ココヤシ *Cocos nucifera* L. (ヤシ科)

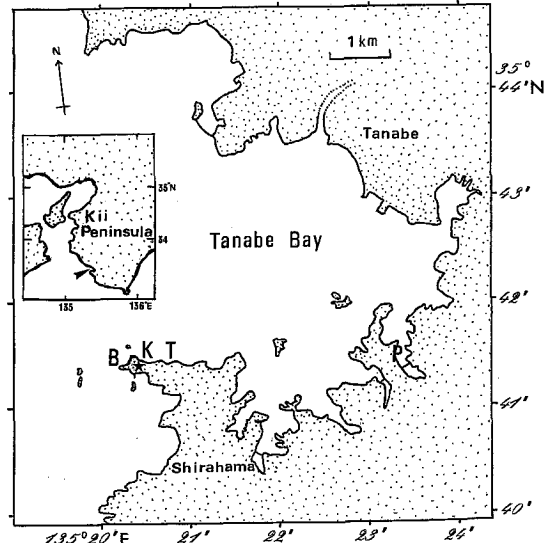


図1. 熱帯系植物の散布体が漂着した和歌山県田辺湾の南岸に所在する京都大学瀬戸臨海実験所(★)周辺の海岸: 番所崎(B); 北浜(K); 田尻(T).

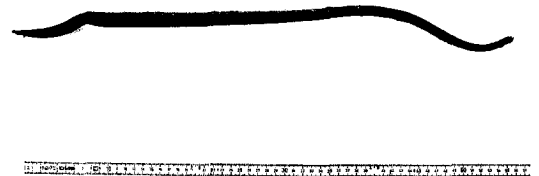


図2. 北浜に2008年8月30日に漂着したオオバヒルギ *Rhizophora mucronata* の散布体.

8月30日に北浜(図1:K)に1個が上記のオオバヒルギやハウガンヒルギとともに漂着した。本地区で最も頻繁に漂着している熱帯起源の果実である(樫山ほか 2003, 2006)。甲殻動物のエボシガイの少数個体が付着していた。

・ミフクラギ *Cerbera lactaria* Ham. (キョウチクトウ科)

8月31日に北浜(図1:K)に1個が漂着した。本地区からは初めての記録である。長径約6cmの楕円体で、外果皮は完全になくなっており、太い繊維質の中果皮が露出している(図3)。和歌山県ではすでに串本町潮岬で記録されている(中西 1999)。

・ゴバンノアシ *Barringtonia asiatica* (L.) Kurz (サガリバナ科)

本地区での漂着はすでに記録されているが(久保田ほか 1999), 9月1日に北浜(図1:K)に2個, 9月10日に番所崎に2個, 9月14日に田尻(図1:T)に1個, 計5個が漂着した。このように短期間に次々と漂着した例はこれまでなかった(久保田 2006a, 未発表)。

・テリハボク *Calophyllum inophyllum* L. (オトギリソウ科)

9月16日に北浜(図1:K)に1個が漂着した。本地区からは初めての記録である。長径約20mmの球体である(図4)。和歌山県ではすでに串本町潮岬で記録されている(中西 1999)。

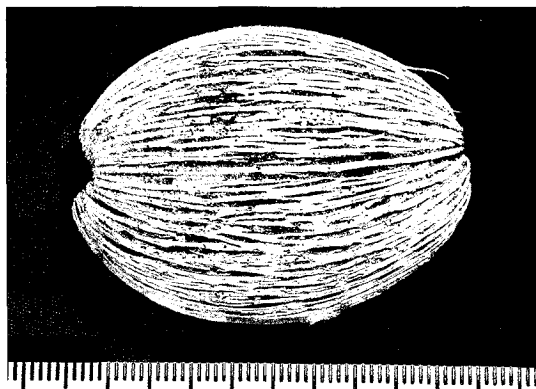


図3. 北浜に2008年8月31日に漂着したミフクラギ *Cerbera lactaria* の散布体。

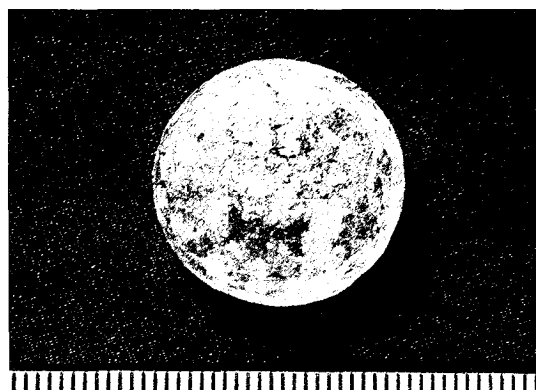


図4. 北浜に2008年9月16日に漂着したテリハボク *Calophyllum inophyllum* の散布体。

引用文献

- Corner, E.J.H.・渡辺清彦 1969. 図説熱帯植物集成. 1147pp. 廣川書店, 東京.
- 何 豊吉 1982. 台湾熱帯植物彩色図鑑(三). 358pp., 恒春熱帯植物園標本室, 恒春.
- 初島住彦 1989. ヒルギ科 RHIZOPHORACEAE. 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫編. 日本の野生植物木本Ⅱ. pp.104-105. 平凡社, 東京.
- 石井 忠 1977. 漂着物の博物誌. 258pp. 西日本新聞社, 福岡.
- 樫山嘉郎・久保田 信・戸部 博・中西弘樹 2003. 変わった型のココヤシの和歌山県白浜町番所崎への漂着記録. 漂着物学会誌 1: 29-30.
- 樫山嘉郎・久保田 信 2006. 細長型ココヤシの和歌山県白浜町への漂着追加記録. どんぶらこ(16): 7.
- 久保田 信・田名瀬英朋・樫山嘉郎 1999. 和歌山県田辺湾に漂着したゴバンノアシ(サガリバナ目, サガリバナ科)の果実. 南紀生物 41: 129-130.
- 久保田 信 2003. 南方系植物果実複数種の和歌山県白浜町番所崎への稀な漂着記録. 漂着物学会誌 1: 31-32.
- 久保田 信・岡村親一郎・湊 宏・中西弘樹 2004a. 和歌山県田辺湾周辺海域に最近漂着したモダマ(マメ科)の種子. どんぶらこ(9): 2.
- 久保田 信・永益英敏・中西弘樹 2004b. イルカンダ(マメ科)種子の本州への漂着初記録. 南紀生物 46: 37-38.
- 久保田 信 2006a. ゴバンノアシの漂着. 久保田 信著. 宝の海から 白浜で出会った生き物たち. pp.102-103, 図版30. 紀伊民報, 田辺市.
- 久保田 信 2006b. 和歌山県田辺湾に最近漂着した2個目のモダマ(マメ科)の種子. 南紀生物 48: 168.
- Nakanishi, H. 1987. Stranded tropical seeds and fruits on the coast of the Japanese Mainland. Micronesica 20: 201-213.
- 中西弘樹 1999. 漂着物学入門. 211pp. 平凡社, 東京.

(Received Sept. 21, 2008; accepted Oct. 17, 2008)

¹ 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 ¹ Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama 459, Nishimuro-gun, Wakayama, Japan 649-2211

² 〒649-2201 和歌山県西牟婁郡白浜町堅田1143 ² Katada, Shirahama-cho, Nishimuro-gun, Wakayama 649-2201

³ 〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部生物学教室 ³ Biological Institute, Faculty of Education, Nagasaki University, 1-14, Bunkyo-machi, Nagasaki 852-8521